令和2年度　第2回エリア全体会　会議録

１．開催日時　　令和３年３月５日（金）　　１４：００～１６：００

２．場　　所　　浜北区役所大会議室

３．出 席 者（敬称略）

【構成員】

	カテゴリー	所属	役職	構成員	備考
1	計画相談（児）	相談支援事業所シグナル	所長	尾関　ゆかり	
2	計画相談（者）	相談支援事業所ぽるた	相談支援専門員	間木　彩月	
3	社協	浜松市社会福祉協議会天竜地区センター	ＣＳＷ北部 地域リーダー	永井　紀子	
4	当事者（個人）	特定非営利活動法人 Harmony	理事長	池谷　直士	欠席
5	当事者（団体）	浜北手をつなぐ育成会	会長	伊藤　基久	
6	当事者（団体）	浜松地区肢体不自由児親の会	副理事	村松　真奈美	
7	教育関係	静岡県立浜北特別支援学校	校長	前田　貴子	※代理参加 副校長　三上　英
8	教育関係	静岡県立天竜特別支援学校	校長	岩附　祥子	※代理参加（欠席） 教頭　川瀬　正博
9	教育関係	浜松市立中瀬小学校	スクールソーシャル ワーカー	鈴木　洋貴	
10	医療関係	メンタルクリニック・ダダ	相談員	山田　知佳	
11	医療関係	独立行政法人国立病院機構天竜病院 療育指導室	主任児童指導員	成田　史緒	
12	事業所（こども）	児童発達支援センター「ひまわり」	施設長	内藤　由美	
13	事業所（入所）	支援センターわかぎ	施設長	古橋　誠	
14	事業所（入所）	天竜厚生会 施設サービス課	課長	大石　直弘	
15	事業所（通所・児）	放課後等デイサービス事業所 あざみ	管理者兼児童発達 支援管理責任者	竹内　こず江	
16	事業所（通所・者）	たちばな授産所	サービス管理 責任者	大倉　ゆかり	※代理参加(ZOOM) 所長　山下敏明
17	事業所（多機能）	浜北愛光園	園長	弓桁　智浩	
18	地域	浜松市浜北区民生委員児童委員協議会	常任理事	渥美　由美子	
19	地域	浜松市天竜区民生委員児童委員協議会	副会長	坂井　久司	

【オブザーバー】

1	基幹相談	浜松市基幹相談支援センター	所長	雨宮　寛
2	基幹相談	浜松市基幹相談支援センター	相談員	岸　直樹（ＺＯＯＭ）
3	基幹相談	浜松市基幹相談支援センター	相談員	山下　由佳
4	基幹相談	浜松市基幹相談支援センター	相談員	永田　貴裕

【事務局】

	カテゴリー	所属	役職	構成員
1	事務局	社会福祉法人　天竜厚生会	地域福祉課長	諸田　嘉人
2	事務局	社会福祉法人　みどりの樹	統括管理責任者	海野　洋一郎
3	事務局	浜松市浜北・天竜障がい者相談支援センター	管理者兼相談員	今田　将晴
4	事務局	浜松市浜北・天竜障がい者相談支援センター	相談員	大柳豆　勇太
5	事務局	浜松市浜北・天竜障がい者相談支援センター	相談員	松林　実希
6	事務局	浜松市浜北・天竜障がい者相談支援センター	相談員	山本　昂哉
7	事務局	浜北区社会福祉課	課長	伊藤　弘和
8	事務局	浜北区社会福祉課	課長補佐	恒川　洋代
9	事務局	浜北区社会福祉課	障害者支援グループ長	島田　佐栄実
10	事務局	浜北区社会福祉課	障害者支援グループ	中谷　知由
11	事務局	天竜区社会福祉課	課長	芦澤　信之
12	事務局	天竜区社会福祉課	課長補佐	小栗　康治
13	事務局	天竜区社会福祉課	障害福祉グループ長	内山　敦子
14	事務局	天竜区社会福祉課	障害福祉グループ	福田　すみれ

４．議事内容

（１）浜松市障がい者自立支援協議会について

（２）令和２年度活動報告について

（３）令和３年度活動計画（案）と取り組みについて

（４）浜北・天竜障がい者相談支援センター令和２年度活動実績報告

５．会議録作成者　　天竜区社会福祉課　障害福祉グループ　福田

６．会議記録

（１）浜松市障がい者自立支援協議会について説明（Ｐ３）
育成会伊藤会長よりコロナ感染時の対応に関する相談をうけ、エリア内だけの問題ではないと判断し、企画会議にて報告をした。
（伊藤委員）
・コロナの中で緊急時の対応を協議会のなかでどうしていったらいいかぜひ考えていってほしい。

（２）令和２年度活動報告について説明（Ｐ４～）

（古橋委員）
・組織図のエリア全体会役割にあるように、協議をこの会議体でするべき。区から市にあげていく前にこの会議体が中間的な役割となるように協議したほうがいいのではないか。
⇒（事務局）協議の場となるように改善していく。

（３）令和３年度活動計画（案）と取り組みについて説明（Ｐ６．７．16）

（村松委員）
・エリア合同部会で具体的に部会に必要なメンバーは誰か。
⇒（事務局）＋５事業所　天竜病院・まじわりの家・あすなろ・あさひ・浜北愛光園

・Ｐ８課題の把握は、当事者からの意見を吸い上げてくれる機会があって課題を認識しているか。
⇒（事務局）生活介護事業所の方が現場で意見を聞いているためそれを吸い上げている。

・事業所を併用していると親が高齢になってくると負担が大きいため、特支卒業生のその後についてもエリア合同部会で考えていってほしい。卒業後の子の居場所ができれば卒業生の居場所の確保にもつながる。
⇒（事務局）各事業所の守備範囲を把握して横のつながりを増やして受け入れ体制を協議していけるようにする。

（三上委員）
・エリア合同部会について、肢体不自由児の生活介護利用受け皿を考えてくうえで大切だと感じる。色々な事業所と連携をつくっていく出発点だと感じる。

（弓桁委員）
・定例会成果で共生型の取り組みの記載について、愛光園で障高ショートがあるが、高齢者の介護をしている職員がいきなり障害の方を受け入れるのは障がい特性もあり難しいため障がいの事前学習などの必要性を感じる。

（伊藤委員）
・上に話をあげていったあと行政側の回答をエリア全体会で報告してほしい。途中経過でもいいから結果を教えてほしい。
⇒（事務局）エリアの課題を企画会議にあげていくフィードバックをしっかりしていくキャッチボールのできる組織にしていく。

（大石委員）
・取り組みの内容を取りまとめいただいた、内容のまとまったものが共有してほしい。何かがうえにあがっていく内容がみえるといい。市全体会の資料などわかりやすかった。

⇒（事務局）今年度はコロナ渦の中で十分な機能ができていなかった。協議資料というより報告資料が中心。テーマを受け止めて協議してというよりも、課題をあげて行政からどういった回答があったか横軸の中でしっかりみえるようにする。
会議資料については、ＨＰにもあるがわかりやすいということであれば、今後参考資料としてつけていく

（古橋委員）
・エリア全体会の役割について、具体的にプロセスとして進めていくためには資料２の中でてきたものをしっかり協議して専門的な立場で見て話し合って上にあげていくことが必要ではないか。重心に関わる整備は難しい。市の主導ありきの様な整備が自立支援連絡会をとおして市の方へ伝えていければいい。
⇒（事務局）協議しやすいように協議をお願いしたい点を提案しながら協議の場としてなるようにしっかりやっていく。

（伊藤委員）
・多職種ネットワーク会固定メンバーでやるのか？
⇒（事務局）固定メンバー
・エリア全体会は年２回でなく随時行うべき。
・資料を事前送付してくれたため協議に時間をかけることができる。
・家族としてはコロナウィルスの対応をどうすれば良いのか。どういった支援が入るのかとか具体例を教えて欲しいとか、皆さんで話し合ってネットワーク作りやこの地域での対応について話ができる良い。コロナ感染した障害者を受け入れ先の確保について神戸や横浜では受入を１～２週間行う施設があると聞く。そういった所を参考にしながら、施設を作るのか。難しいのであれば、浜松市は法人、事業所が多いので何か連携を考えてもらえると良いと思う。自宅待機とならいようにしてほしい。
・地域の課題として 5080　50 代の障害者を 80 代の親がみている知的障害者の在宅での親等との同居は 80%以上。GH 等に行けている人は良いが。発見されないで孤立している場合もあるのではないかと思う。民生委員からの相談がないということが地域から存在感がなくなっているのか・・・手遅れとならないようなネットワークづくりを考えて欲しい。20 代の障害者をどうやって自立させていくか発達障害の子が引きこもりになりやすい。自立させていく支援が少なく、一般就労後、失敗したときに引きこもりになりやすいためいかに福祉の支援について情報提供してくのか、どうつながりをつくっていくのか協議できると良い。
⇒（事務局）5080 の課題も根深い地域見守りの重要性を感じる

（渥美委員）
・直接民生委員に連絡が来ることはあまりない。相談と既に繋がっていることが多い。ひきこもりについては情報がくれば見守ってはいる。コロナウィルスについては医療の提供できる状況が必要と思うが、施設で対応が難しいのも現実だと思う。その中では行政、医療にかかる問題だと思う。

（４）浜北・天竜障がい者相談支援センター令和２年度活動実績報告（P17～）

（坂井委員）
・区別での実績はないのか。件数を把握することで課題を把握できればいい。
天竜の中でも地域柄が違う。社会資源も乏しい中で、民生委員のなかで天竜区単独から合同になったことできめ細やかな相談がされるか不安な声がきかれた。災害もあり情報が入らないときにも相談センターが個別に対応して頂けたと思う。件数が増えたというのは浜北区が増えたとか区別の実績ないか割合などを知りたい。

⇒（事務局）エリアをわけて件数を報告させていただく。常にみなさんのもとにこちらの考えを情報発信していけるように努めていく。

（永井委員）
・エリア合同部会メンバーにこれからの生活を考え、民生委員さんや民間の事業所もいればいいのかなと思う。

（尾関委員）
・こどもに関する相談が減っているのに対して高齢者との関りが増えているよう。シグナルとして子供の関りは例年並みのため、こどもの関りはどこに消えていったのか考える必要がある。啓発アンケートおいてどんな人がどれくらい来ているか把握できるといい。民間の事業所へ、発達障害引きこもりの啓発活動もしていけるといいなと思う。

（弓桁委員）
・コロナで新たにできた課題や相談などがあれば、全市的な課題となっていくためどこかで取りまとめて頂いて、おろしてきて頂けると、我々としても次の課題と狙いはどこだという焦点化ができると思うのでお願いしたい。
⇒（事務局）特にない。企画会議に地域で解決できない課題をあげていくためコロナについても意識して皆さんと協議して提案していけるようにする。

（山田委員）
・支援者にもできることは限られてくるため地域を巻き込んでいくことが大切。人工が減り相談件数が増加しているがフォローをどうしているか、どこにつなげたかどういった頻度で関わっていくかなどの分析が必要。
⇒（事務局）数字は報告するだけでなく分析するのが大切しっかりした分析をもって提案していく。

（内藤委員）
・放デイなども前は毎日いくのも容易だったが今は週１回見つけるのも難しいという課題もある。こういったことも取り上げていただければと思う。

（成田委員）
・在宅難しい人の入所の支援での関りが多いが、短期入所を始めて５．６年、次年度生活介護事業所開設のため地域と関わっていくことが増える。地域のニーズをこういった機会を通じて把握していきたいと思う。

（伊藤委員）
・放デイの規制が強化されると聞いた、昨年１ヶ所の事業所が交替（事業者が）して親から戸惑いの声があった。戸惑わない様に、サービスが受けられなくならないためにも早めに対応してほしい。

（竹内委員）
・放課後連絡協議会の中で、濃厚接触の感染の報告はうけるが情報を流してもらえるシステムがない。事業所として不安。
⇒（事務局）成功事例などを公開しながら、繋がり方を皆さんとつくっていきたい。

（古橋委員）
・児童指導員の国で締め付けをするという話をきいた。
実務経験があれば認めるというものだが、今後児童福祉に関わる業務にたずさわる実務経験

のみになると株式会社など保育士など児童指導員が欠員になると国の定めを満たせなくなる。小規模運営だとより厳しくなるのでは。放デイの中で資格のある職員の奪い合いにならないかと危惧している。

（古橋委員）

・今まで浜北の会議に出席し今年度から天竜の課題にふれてみると、地域課題というのが確実にあると感じた。
たとえば、市のバスタク、地域性を考えて水窪佐久間の人が街に出るまでの経費は大きいため、市の予算の中で地域の中での金額を変えるなど、地域性を考えて制度設計を考えてもらうと、天竜の人が天竜のことを考えてくれていると感じるのではないか。

(山下委員)

・コロナウィルスの中、たちばなの実績としての落ち込みは前年度比１割ぐらい。仕事の確保が難しい。国の方からは農福連携の話もあるが、今やっている仕事をやめてシフトしていくのは難しい中で試行錯誤しながらやっている。

(間木委員)

・計画としてはセンターがエリアにひとつという相談先が分かりやすくなっているのは良いことだと思う。新しい相談は本人、家族から直接相談があるというよりは、センターからの依頼があるといった印象。